

## 社会教育・家庭教育からみた 学力向上策

—サテライト事業との関連と可能性—



国立大学法人  
鳴門教育大学

## 他県の状況 秋田県の学力対策



秋田県教委 Webより

昭和30年代、秋田県は全国学カテストで**40位台を低迷**していた。

「これでは県外にいる県出身者は、胸を張って故郷を語れない。このような状況を何とかしなくては」と、県教育関係者たちは誓った。

それから**教育改革のための努力**が始まったようだ。

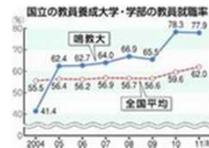
国立大学法人  
鳴門教育大学

## 本学の教員就職率の動き



平成16年 41.4%  
(第44位)から

仕掛けと努力、全教員の意識向上



教員就職率 1位へ

国立大学法人  
鳴門教育大学

## 何が支えていたのか

秋田県は現行の学カテストが始まった07年以降、トップクラスをキープしているが、良いのは成績だけではないと聞く。

児童・生徒へのアンケートで「**学校が楽しい**」と答えた人の割合は89.3%で全国1位。**欠席率も全国最下位**だ。しかし、農業や林業以外にはこれといった産業がなく、**一人当たりの所得が最下位圏**（47都道府県のうち42位）である。

国立大学法人  
鳴門教育大学

## 何が支えていたのか

報道や視察などから・・・

週に2回ほど「ミニテスト」を実施しており、全員が90点以上取れるまで何回も再テストをすと聞く。また、分かっていない児童には、個別の補習授業も行つた。秋田県の補習授業の実施率は、小学校は全国平均に比べ20%、中学校は30%ほど高い。

児童や生徒は「**家庭学習用ノート**」を持っており、自ら勉強内容を決めて毎日1~2ページを埋める。担任が朝受け取り、その日のうちにコメントを書き込んで返却するようだ。自発的に勉強する習慣が身に付いているため、家で授業を復習する児童・生徒の割合は小学6年生で89%と全国平均（51.4%）を大きく上回る。

国立大学法人  
鳴門教育大学

## 秋田県の指導が成功を収めた背景

**教員たちの献身的な努力と家庭の協力**があったといえよう。

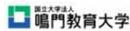
「研修や補習授業などやることが多く、初めて赴任した教員は泣き言を言うほどだ」としながらも、「山里のため、教員と住民が互いをよく知っており、教育への協力を惜しまない」と、当時の関係者は語ったようだ。

国立大学法人  
鳴門教育大学

### 秋田県の指導が成功を取めた背景

秋田県東成瀬村の鶴飼孝教育長は、共同通信社のインタビューで「最初は『学力評価が学校の序列化につながる』という反対の声が大きかったが、結果的には教育方法の改善が大きく役立った」と語った。その根底に、**家庭教育や社会教育の充実**がある。

(2012/09/06 【47NEWS】より一部引用)



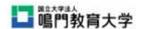
### 他県の状況 沖縄県の学力対策

「学力は、不動の県内6位(最下位)」といわれてきた石垣市は、昨年、初めて全科目で県平均を上回り、順位も上位に入った。

同市は、23年度から、**全校で毎朝、読み書き、計算の反復練習を徹底し、授業改善にも力を入れた。家庭には生活改善を促し、各公民館では、家庭学習を支援した。低学力の原因についての犯人捜しをやめ、学校、家庭、地域がそれぞれ責任感を持つ教育システムが奏功したといえる。**

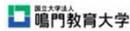
(高知に学べとのスローガンで)

2014.8.25 産経Webニュースより



### 家庭・地域における学力向上策

- \* 家庭学習・生活習慣の改善
- \* 地域の学校支援、土曜授業支援
- \* 社会教育の充実(家庭学習支援)
- \* 宿題のススメ  
(学校からのアクション)



### 派遣社会教育主事の現状

平成23年5月現在、15の道府県で派遣社会教育主事制度を実施  
※実施都道府県は年々減少

都道府県における派遣社会教育主事制度の有無

有(13道府県)	無(34道府県)
北海道 青森 岩手 宮城 秋田 茨城 群馬 富山 福井 京都 兵庫 島根 山口	山形 福島 栃木 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟 石川 山梨 長野 静岡 愛知 三重 滋賀 岐阜 大阪 奈良 和歌山 鳥取 岡山 広島 徳島 香川 愛媛 高知 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄 * 四国は配置なし

#### 〈財政的措置の経緯〉

昭和49年度 給与費補助による都道府県に対する国庫補助制度開始  
昭和60年度 交付金制度に改正し、「社会教育指導事業交付金」により、必要経費の一部を交付  
→平成9年度限りで「社会教育指導事業交付金」廃止  
平成10年度 一般財源化し、地方交付税にて措置

(出典) 教育行政調査

### 派遣社会教育主事の現状

平成23年5月現在、15の道府県で派遣社会教育主事制度を実施  
※実施都道府県は年々減少

都道府県における派遣社会教育主事制度の有無

有(13道府県)	無(34道府県)
北海道 青森 岩手 宮城 秋田 茨城 群馬 富山 福井 京都 兵庫 島根 山口	山形 福島 栃木 埼玉 千葉 東京 神奈川 新潟 石川 山梨 長野 静岡 愛知 三重 滋賀 岐阜 大阪 奈良 和歌山 鳥取 岡山 広島 徳島 香川 愛媛 高知 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄 * 四国は配置なし

平成21年 有 30道府県

平成23年 有 15道府県(岩手、秋田、富山が、再配置)

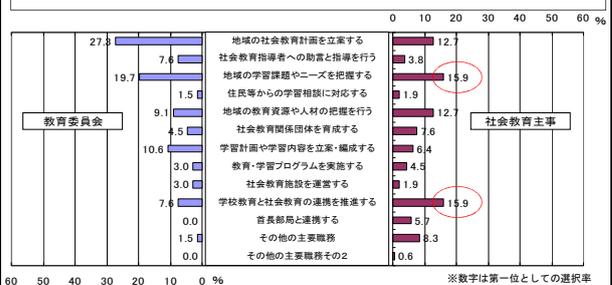
(福島、千葉、愛知、三重、和歌山、徳島、香川、大分が廃止)

平成25年 有 13道府県(岐阜、岡山が廃止)

(出典) 教育行政調査

### 社会教育に対する教育委員会・社会教育主事等の意識

○社会教育主事の「今後の実務上の重要度」についての認識【教育委員会—社会教育主事】  
社会教育主事と教育委員会の認識の差が顕著な職務は「地域の社会教育計画立案」、教育委員会では27.3%と最も高いが、社会教育主事では12.7%に留まり、「地域の学習課題やニーズ把握」、「**学校教育と社会教育との連携**」の方が重視されている。また、首長部局との連携はあまり意識されていない。



(出典) 平成22年度「社会教育指導者の職務に関する調査研究」

### 家庭教育の充実・少子化対策として 学力向上のために

社会教育の活性化と、学校と家庭との連携をめざす

**阿南・美馬**

社会教育主事(あるいは準ずる人材)が、家庭教育・学校連携に関わる

**社会教育主事的な職員配置** (現在の研究生)

- ・家庭教育の充実(学力向上策)・・・調査、指導
- ・学校教育との連携(学力向上策)・・・支援
- ・少子化対策として、チェーンスクールやパッケージスクールを支援・運営(統合校や少人数学校に)
- ・防災減災対策として、啓発活動及び避難所運営などを支援

教員や地域住民

家庭教育支援、学校支援ボランティアの充実  
災害時の避難所運営を準備など

鳴門教育大学

### サテライトの活用(研修、相談)

教員研修の活性化、旅費の縮減、徳島教育の一体化

**阿南・美馬(サテライト)**

担当教員が対応(社会教育主事的な配置)  
(通常は、市町の教委職員、教員として勤務)

**大学**

配信

- ・サテライト運営(大学の授業や講演等を受信)
- ・学力向上のための大学活用(ネットでの出前授業、教員研修)
- ・地域課題解決のゼミ指導を受ける
- ・県内のネットワーク化

○学習支援  
○地域支援  
○学校支援

**教育センター**

配信

研修の活用

鳴門教育大学

### 課題として

**阿南(サテライト)**

- ・阿南のネットワーク環境の整備(公民館のルータ、回線の改善)
- ・阿南会場の運営(活用の定例化)

**美馬(サテライト)**

- ・美馬会場の運営(活用の定例化)

**大学**

配信

コンテンツの課題

**教育センター**

接続出来ていない

### ある県での懇談会から

平成25年度 岡山県政に関する有識者意見交換会

テーマ: 教育県岡山の復活 日時: 平成25年7月4日(木曜日)  
大阪市にて

出席者  
岡山県知事 伊原木 隆太  
立命館大学教育開発推進機構教授、立命館小学校校長顧問 陸山英夫氏  
鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授 阪根健二氏  
関西学院大学教育学部教授 中村 哲氏

会議概要○主な提言等の内容

1 立命館大学教育開発推進機構教授、立命館小学校校長顧問 陸山英夫氏

- ・生活環境の悪化が子ども達の機能不全を生み、昔ながらの方法で立て直そうとすると、子ども達にマイナスの負荷がかかる。
- ・いろいろなことをやるのではなく、漢字と計算だけをやる。漢字と計算だけだと、子ども達、保護者、先生に安心感が広がる。それさえできれば良いから、パニック状態でなくなる。漢字と計算の狭い範囲に限定すると、上昇が着実にあがる。つまり自信が持てる。
- ・集中は重要だが、緊張が集中を生み出すと日本人は錯覚している。緊張は集中を生み出さない。テスト演習すると子どもの学力は落ちてくる。寝ることに、自信を持たせることが重要だ。

### ある県での懇談会から

2 鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授 阪根健二氏

- ・教師が本気になる施策として、各学校がPDCAの前にR(リサーチ)を行う。R(リサーチ)して、はじめて納得するものだ。そこから仕掛ける。
- ・指導に困難な学校で、何ができていなかったかを、先生方と考え、子ども達と作るノートを半年をかけて開発し、小学校児童に配った。表面は月曜日、裏面は金曜日版となっている。この金曜日版には、保護者欄がある。記入しない保護者には、さらに協力を求めるという仕掛けがある。この結果、学校では立ち歩きが減少し、効果があがった。こうした取り組みが、学力を下支えする。

3 関西学院大学教育学部教授 中村 哲氏

- ・課題にどのように対応するか。問題解決的なアプローチと文化創造的なアプローチに分けられる。文化創造的なアプローチは東洋医学的。体と心、知、活力、人間の生きる力を重視する。時間をかけるうちに積極的になってくる。もう一つの対応の仕方がある。後者の考え方に基づいての対応も必要ではないか。

平成25年度 岡山県政に関する有識者意見交換会の資料から、引用・加筆

### 百マス計算の陰山氏は・・・

- ・ゆとり教育(?)への反発  
・・・必要のない教育の流れへの反発
- ・真面目な教育  
何でもしてしまう  
だからこそ、  
漢字と計算だけ
- ・苦しむ子ども  
機能不全に陥って  
いないか

平成25年度 岡山県政に関する有識者意見交換会(関西地区 7月4日)で



### 陰山メソッドの本質を知る



- ①教師だけの授業改善  
だけでは、学力向上は望めない  
…なぜ公文が効果があるのか…仕掛け
- ②努力のむなしさ…効率の悪さからの解放
- ③集中することの重要性(テストの回数ではない)  
…緊張は集中できない(リラックスが重要)
- ④学習させることは、子どもを救う
- ⑤宿題のススメ
- ⑥家庭学習、家庭教育の重要性  
(早寝、早起き、朝ご飯)

平成25年度 岡山県政に関する有識者意見交換会(関西地区 7月4日)で

### 基礎・基本の定着(東かがわ市の土曜授業)



香川県東かがわ市立白鳥小学校 6年生の土曜授業風景(百マス計算を行う。)  
(2013年度後期)

### 今、実践(あるいは企画)しようとしている事業

- ①家庭学習・家庭教育の実態調査(1,700名)  
\* 阿南第一中校区、美馬中学校校区
- ②家庭学習ノート作成
- ③拠点校への支援  
(家庭学習診断)
- ④子どもたちへの支援(放課後、土曜の活用)
- ⑤サテライトの活用



岡山県立  
瀬戸内大学  
瀬戸内教育大学